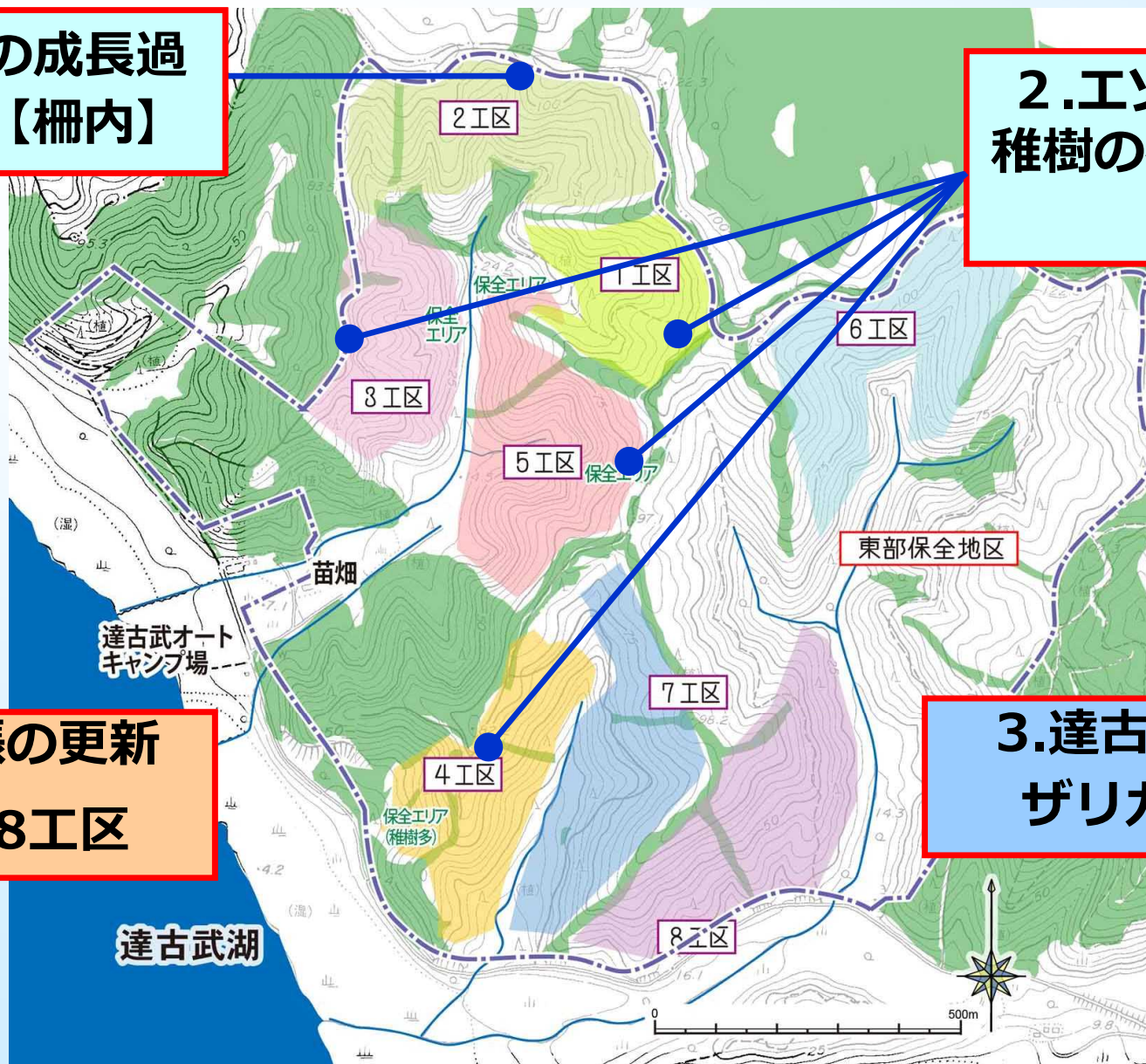


達古武地域自然再生事業の実施状況について

■今年度の調査について

1. 植栽木の成長過程の追跡【柵内】

2. エゾシカによる稚樹の被食状況調査【柵外】



管理台帳の更新
主に6-8区

3. 達古武川上流部
ザリガニ類調査

■調査結果：【柵内】植栽木の成長過程の追跡①

目的

- ❑ 植栽手法の検証
- ❑ 成長過程の把握⇒保育年数の検討、上層木（カラマツ）の影響の把握

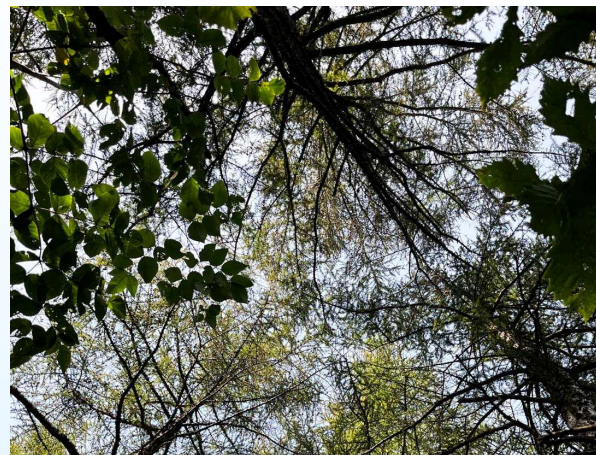
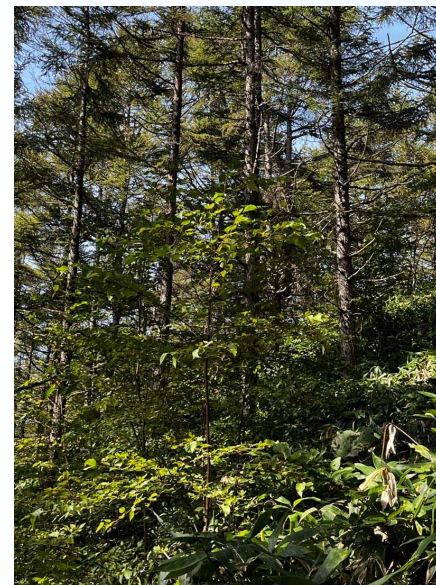
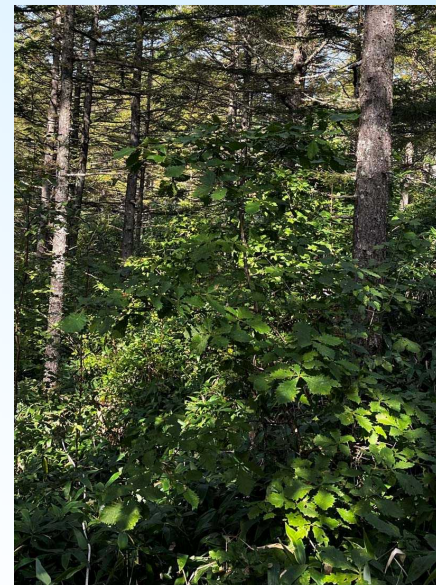
調査手法

- ❑ 2011年・2013年植栽の苗木（防鹿柵内）の樹高を測定
- ❑ 樹高約4m以上の個体については、胸高直径と上層環境も記録

調査植栽木

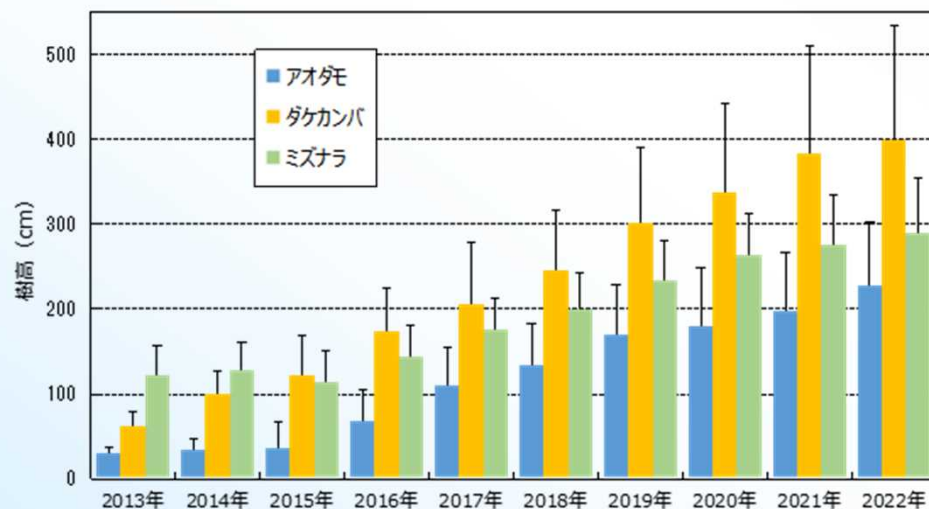
樹種	生存	枯死	平均樹高	平均直径
ダケカンバ	55	0	400cm	4.2cm
アオダモ	44	0	290cm	2.2cm
ミズナラ	55	0	265cm	2.6cm
計	154	0	320cm	3.5cm

*胸高直径は樹高約4m以上の個体について計測。

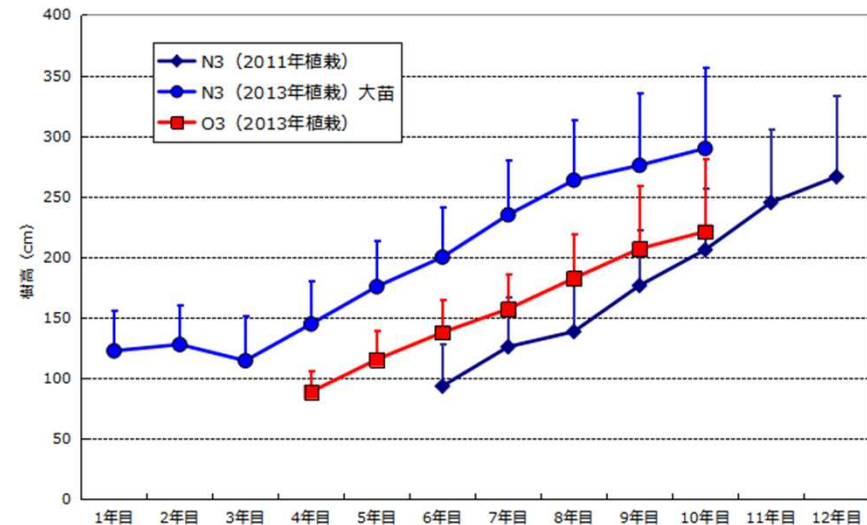


■調査結果：【柵内】植栽木の成長過程の追跡②

2013年植栽木の平均樹高の推移（樹種別）



ミズナラの平均樹高の推移（植栽サイズ・年次別）



調査結果

- 植栽10年目で8~9割が樹高2mを越えた。
- 樹高成長は平均20cm前後見られているが、やや鈍化傾向。

方針

- 樹高成長の推移を踏まえ、柵の取り外し試験を検討。
- 植栽木の成長に対する上木カラマツの影響を注視。

■調査結果：【柵外】エゾシカによる稚樹の被食状況①

目的

- 柵外での被食状況の検証
- シカ捕獲の効果検証

調査手法

- 6エリアにおいて、柵外に生育する天然更新している稚樹をモニタリング調査
- 稚樹208本について、生死・樹高・新規食痕（冬季・夏季）の有無を記録



水ズナラ食痕

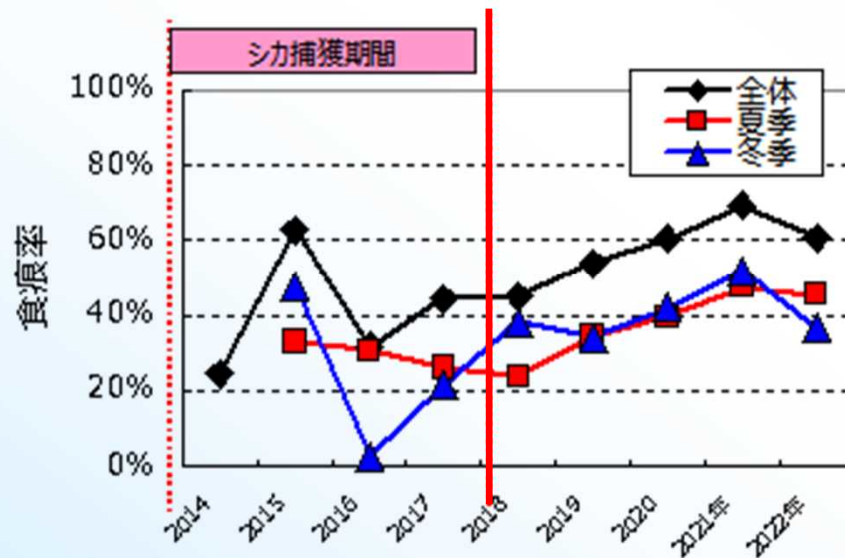


ヤチダモ食痕

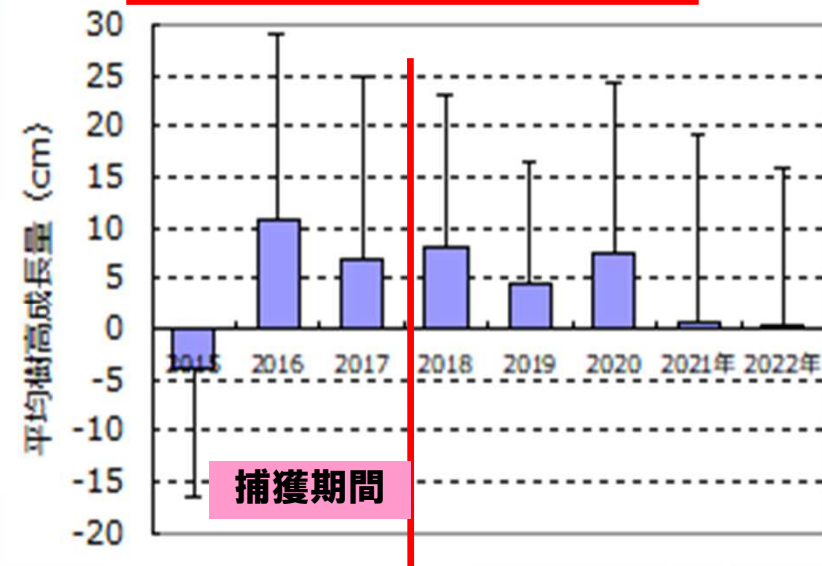
達古武地域自然再生事業の実施状況について

■調査結果：【柵外】エゾシカによる稚樹の被食状況②

新規食痕の割合



平均樹高成長量



調査結果

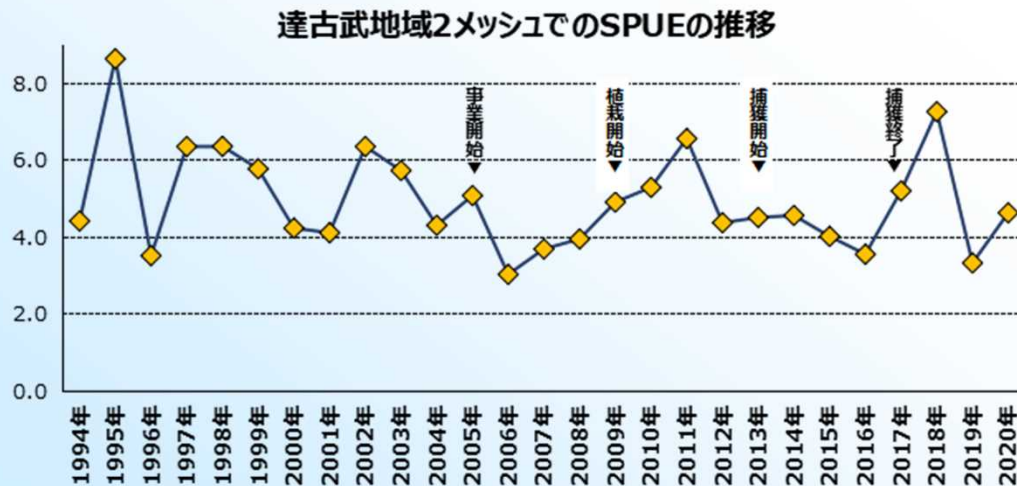
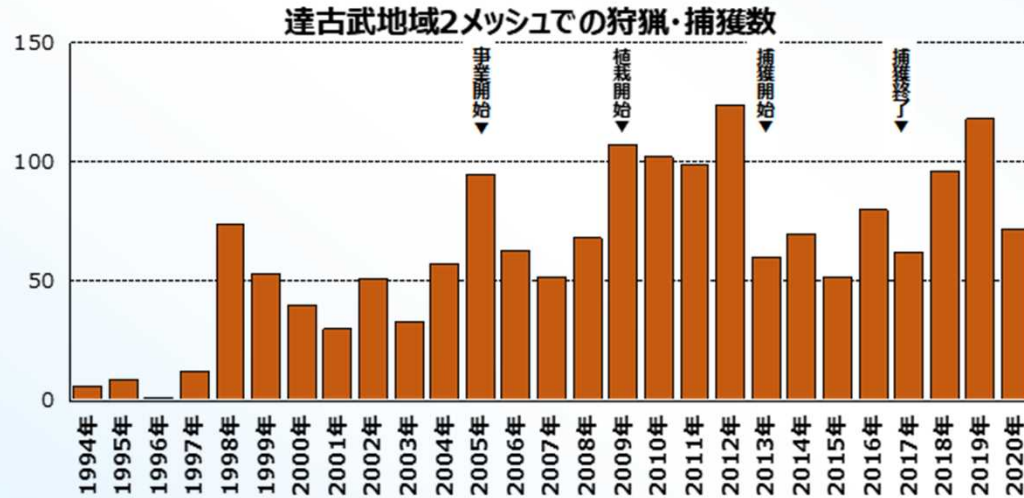
- 新規食痕は61%。昨年より低下したが、高い割合が維持されている。
- 樹高成長は平均0.3cm。昨年同様に小さい数字で、成長できない個体が増えている。

方針

- 被食の影響が強く見られていることを踏まえ、エゾシカの影響に注視しつつ、対策を検討する。

達古武地域自然再生事業の実施状況について

達古武地域のエゾシカの推移



※SPUE: 1日1狩猟者あたりのエゾシカ目撃頭数。4以上で植生に影響始める。
道総研エネルギー・環境・地質研究所「エゾシカ狩猟情報マップ」に基づく

- 1990年代からエゾシカの個体数が多い地域で、植栽開始時期から特に増加傾向で、狩猟数も増加。
- 2013年からの個体数調整事業により、個体数が減少したが、再び増加傾向にある。